



社会福祉法人 であいの里 さやま保育園
2024年 2月1日

** 保育目標 和合 なかよくします **

- ・作品展では友だちと一緒に表現する楽しさを味わう。
- ・誰とでも、なかよくあそぶことができる。

【法話】

ご 恩

山口県内のお正月は穏やかでしたが、1月下旬になって積雪で不自由な思いをされた方もおられることと思います。

今年は正月早々元日夕刻に能登地震・2日夕刻には羽田空港飛行機事故と災害事故ではじまりました。地震も事故も予測できないもので、被災された方の気持ちはと案ずるばかりです。

さて、私たちは一人で生きていくことは、できません。まわりの多くによって生かされていることを、仏教では「お陰^{かげ}」「ご恩」といいます。そして四恩^{しにん}といって、四つの恩の大切なことが説かれています。その四つは、1. 父母の恩（父母や家族の恩） 2. 衆生の恩^{しゅじょう}（衆生とは、生きとし生けるもの、一切の生きもののことで、それらから受ける衣食住などの恩） 3. 国の恩（国土天地自然の恩） 4. 三宝^{さんぼう}の恩^{ぶつぽうそう}（仏法僧＜仏さま・仏さまの教え・仏さまの教えに従う人＞の恩）です。

私自身が、多くに生かされていることに気付かされるところに、「おかげさま」という、ご恩の世界がひらかれてきます。仏さまの恩（三宝の恩）の中で、父母の恩、衆生の恩、国の恩を味わっていききたいものです。仏恩ぬきに他の恩を感じることは、難しいことです。

合 掌

19日 礼拝 13日～20日 以上児作品展

5日 懇談会(ぞう・あひる・ひよこ) 奉仕作業 参観日(あひる・ひよこ) 6日 懇談会(きりん・うさぎ・りす) 奉仕作業 参観日(うさぎ・りす) 5～9日ピッパラセール

8日 小学校探検・交流会(ほし組) 9日 避難訓練

発育測定(14日 うさぎ・りす 15日 ぞう・きりん

16日 ひよこ・あひる) 20日 クッキー作り

21日 誕生会 26日 新しいクラスの始まり

＊年長児の各小学校の仮入学

「生き生きとした姿、きらきらとした目」

3・4・5歳児の異年齢保育を始め1年が過ぎようとしています。1年前を振り返ると、狭い部屋でたくさんの人数が活動し、やりたいことができていたか？より、安全に生活できるか？が中心で、一人ひとりの欲求を聞いていくこともできない状態でのスタートでした。

ホールを使つての給食や午睡。サークルタイムで自分の思いを言葉にしたりお友達の気持ちを聴いたりすること。自分でやりたい遊び(園内・園庭)を選んで、給食ギリギリまで遊び続けること。(以前は担任の先生が給食の準備のため、やりたい遊びが中断されましたが、ホールで準備していただく先生がいるので、おなかですくまで遊べます。)行事が始まる前も、どんなことがやりたいのか？子どもたちの気持ちを聴く時間も大切にしてきました。

そうしていよいよ最後の行事の作品展の取り組みが連日続いています。お絵描きしたり、木工制作に取り組んだり、紙粘土作りをしたり、みんなが一緒に同じ時間に作るのではなく、作る場所を準備しておいて、作りたいときに行つて制作に取り組んでいます。

ホットボンドを使って、秋に集めた木の実や木切れ、段ボールや廃材も、立体的に自由に組み立てて、思い想いの想像と創造を働かせて作品が出来上がっていきます。上手いかわなくても、またやり直し、次の日も次の日も活動を続けている姿が見られます。「やりたいことを、やりたいだけ、じゅうぶんにできる」環境があれば、こんなに子どもたちが生き生きと自信を持った表情を見せてくれる。きらきらした目でやり抜く集中力が発揮できる。複数の先生たちが、子どもたちが選べる空間を作り、子どもたちを信じ、分担して見守る事ができるからこそ、子どもならではの独創性・主体性が守られているのです。それを窓の外からしっかり見つめている3歳児のお友達。

こうやって作ってきた作品だから、子どもたちは自分の作品も、お友達の作品もとても大切にしてくれます。そして、お家の方に作品を見てもらい、たくさんのお話を聞かせたいと思ってくれています。

